

佐賀県立大学シンポジウム (前編)

パネリスト



学長予定者
立教大学経営学部教授

● 山口 和範氏



(株)佐賀バルーナース
代表取締役社長

● 田島 寿太郎氏



一般社団法人clay
代表理事

● 佐々木 元康氏



(株)中野建設 常務取締役
佐賀商工会議所青年部

● 中野 千歳氏



佐賀新聞社
論説委員長

● 桑原 昇氏

モデレーター

―若者とまちづくり―

桑原 大学ができることで若者が集まり、街が活気づくという期待もあると思います。実際に、最近大学生ごどのような交流をされましたか？

佐々木 大学生が地域でフィールドワークをし、地域課題を解決するための取組と一緒に考える企画を行い

● パネルディスカッション

● 主催者挨拶

佐賀県は四年制大学が2校と全国最少で、進学者の85%が県外へ進学しています。佐賀で学びたい人がたくさんいる中で、その機会が少ないことはとても残念なことです。今から創る大学だからこそ、新時代を切り拓く大学を創りたい。地域全体をキャンパスとし、県内各地にベースキャンプを設け、自ら課題を見つけ解決できる人材を育成する。産業界や小中高とも連携し、佐賀に新たな価値をもたらす大学を皆さんと一緒に創り上げていきたい。

※ベースキャンプ：県内各地での学生の活動拠点。場所は学習テーマに応じて随時変更。



山口 祥義 知事

佐賀県では、地域に愛され、ともに成長する大学を目指し、令和11年4月の県立大学開学に向けた準備を進めています。7月9日に佐賀県立大学（仮称）シンポジウムを佐賀市で開催し、約250人が参加しました。シンポジウムでは、県立大学学長予定者と、県内の様々な分野で地域づくりを担うパネリストたちが、これからの大学と地域について語りました。

● 学長予定者からの検討状況の紹介

開学時期は令和11年4月を目標に、SAGAアリーナ近くにメインキャンパスを建設予定ですが、学生がそこに閉じこもるのではなく、県全体がフィールド。課題解決型学習を取り入れ、未来を切り拓くチェンジ・メーカーを育成し、地域と学生が共に成長できる教育を目指します。ゼロから創る大学だからこそ、産業界や高校との新しい連携の形を作っていきたいと思っています。学ぶことで人は自由になり、その自由は将来の可能性を広げます。佐賀県の地域課題に学生が積極的に関わることで、彼らと共に佐賀県全体が成長していく。そんな大学を目指しています。



学長予定者
立教大学経営学部教授

山口 和範氏



ました。その際は焼物産業の後継者不足をテーマとして、高校や窯元などにヒアリングなどをしました。若者と一緒に取り組むことで、地域側も自主性や前向きさが生まれてきたように感じます。

中野 佐賀商工会議所青年部は、多くの学生さんに関わってもらいながら、佐賀市内を活性化させるための様々な取り組みを行っています。先日は、サガ・ライトファンタジーについてのワークショップを開催し、多くの学生さんに参加いただきました。大人では思いつかないような新しい提案や面白いアイデアが学生さんからはどんどん出てきて、刺激になりました。

田島 バルーナースでも学生インターンを受け入れています。彼らのアイデアには、いつもハッとさせられています。気づかないところを気づかせてくれる。バスケットボールはエンターテイメントなので、他の業種に比べて間口が広く、色々な人の意見を聞くことができます。我々が地域と若者を繋ぐハブになり、色んな意見を活かして、一緒に街を盛り上げていきたいです。

山口 よりよい明日を考える時は、若者が主役であるべきです。地域の方々に若者を受け入れてほしい。イベントの時だけでなく、日常的に若者が佐賀で暮らす時に、何が必要なのかを大人と若者が一緒に考えることが大切です。

佐賀県立大学シンポジウム (後編)

佐賀県では、地域に愛され、ともに成長する大学を目指して、令和11年4月の県立大学開学に向けた準備を進めています。
7月9日に佐賀県立大学(仮称)シンポジウムを開催しました。

● パネルディスカッション

― 地域とともに ―

大学が成長するには―

桑原 中野さんは高校への出前授業を行われたそうですね。

中野 建設業の魅力を高校生に伝えるために、地元建設業のDX化や女性活躍の状況、働くことについてのイメージが膨らむような話をしました。それらは普段の授業では習わないことです。実際に社会に出ると、教科書通りにはいかないことばかり。学校の先生以外の大人との接点は、子どもたちにとっても刺激が大きいのではないのでしょうか。

の学生さんにホームゲームに参加してもらったりして、SAGAアリーナをもっと盛り上げるにはどうしたらいいかを一緒に考えてもらっています。新しいイノベーションには、新しい切り口が不可欠。それは座学中心の学びだと生まれにくい効果だと思っています。学生たちの実践的な学びを通して、我々も一緒に成長できるメリットがあると感じています。

桑原 企業と大学とが連携する上でもったいなかったらいいのという課題はありますか？

田島 大学のカリキュラムの中で時間的制約があると、中途半端になってしまいがち。できれば、大学在学中の4年間ずっと関わってもらうなど、長期的に連携できるようなと思います。

山口 どうしても4年間で学生は卒業してしましますが、4年間でプロジェクトを区切るのではなく、県立大学として長期的な形で連携を継続できる仕組みづくりは、成功のカギですね。また、課題解決型学習には正解がありません。実践をして、何が足りなかったかを振り返る。そこへアカデミックな知見を持ち込み、次の学びのモチベーションへとつなげていくという循環を継続していく仕組みが大学の中に必要だと思っています。

桑原 新たな県立大学に期待が寄せられています。最後に山口先生からその期待がさらに膨らむメッセージをお願いいたします。

山口 期待に応え、応援していただく大学にならなければいけない。そのためには、県民の皆さんに自分事として、県立大学に関わりたいたいと思っただけが大切。今後も色々な発信をし、皆さんからご意見をいただきながら、一緒に県立大学を創り上げていきたいと考えています。



桑原 佐々木さんは、窠業大学校が佐賀大学になり、有田が大学がある街になったことによる地域の変化を感じますか？

佐々木 学生さんが外から有田町に通ってきたり、住んだりしてくれるようになりまして。大学生が街なかにいるだけで未来を感じます。また、有田町出身の子が地元に残って学ぶという選択ができるようになったことも大きな変化です。残りたい若者たちが残って、地域をよりよくすることを日常的に考えられるようになりました。

桑原 学びの場として、地域を見つめなおす機会ができたんですね。田島さんは、バルーナーズと大学との連携で生まれた効果などありますか？

田島 バルーナーズでは、西九州大学

パネリスト

学長予定者
立教大学経営学部教授
● **山口 和範氏**

株式会社
佐賀バルーナーズ
代表取締役社長
● **田島 寿太郎氏**

一般社団法人 clay
代表理事
● **佐々木 元康氏**

株式会社中野建設
常務取締役
佐賀商工会議所青年部
● **中野 千歳氏**

モデレーター



佐賀新聞社
論説委員長
● **桑原 昇氏**



シンポジウムの様子は、YouTubeで配信中です。視聴はこちらから。

